

令和6年度 学校経営計画

江田島市立鹿川小学校

I ミッション

この江田島市を愛し、自らの手で明日の江田島市を発展させようと広い世界へ羽ばたく人材となるために必要な資質・能力の基礎を育成する。
そして、「鹿川小学校こそ『わくわくする』わたしたちの母校」と言える学校になる。

II ビジョン

- (1) 「自分で考える知力」「みんなとともにあろうとする心」「伸びゆく体」が育つ学校
- (2) 児童の生きていく基盤「気力・生活力」が育つ学校
- (3) 児童・保護者・地域から愛される『わくわくする』学校

III 現状分析

【知】

- 令和5年度標準学力調査（東京書籍）において、全国値を上回っているのは、第2、第5学年の国語、算数、第5学年の理科のみである。特に、第4学年、第6学年の国語、算数の課題が大きい。基礎的な知識、技能の定着を図るとともに、個別指導や意図的なグループ学習、自由進捗学習や自己決定の場の設定などにより、個別最適な学びと協働的な学びの相乗効果による「学びに向かう姿勢」を育成する必要がある。
- 国語においては、依然として「読むこと」に課題がある。算数においては、基本的な演算や図形などの課題が大きく、題意を理解することにも課題がある。特に、第4学年、第6学年の学力向上が急務である。
- すすんで学習に取り組む児童は82%である。自ら学習する習慣をつけるために自主学習を推奨し、自分で課題を設定して主体的に学ぶ力を伸ばす取組が必要である。

【徳】

- 児童の意識調査において、「時間を守る・あいさつ・掃除」の3点については、目標値の90%以上に対してそれぞれ91%、91%、94%と目標を達成しているが、「整理整頓」は目標値77%以上に対して75%であり、課題がある児童が固定化している。
- 5、6年生児童で、「自分たちの学校は自分たちが創る」を意識しているのは86%であり、さらに意識を高め児童の自己効力感を向上させたい。
- 令和5年度いじめ認知件数は2件である。同一集団内で発生しており、継続して見ていく必要がある。令和5年度の不登校児童2名、いじめ以外の問題行動は3件である。不登校が解消しにくくなっており、長期的な取組が必要である。

【体】

- 令和5年度の体力運動能力調査で、上体起こし（秋の再計測を含む）において県平均以上の割合は25%、50m走は75%であり、目標値を下回った。特化した運動や体幹を鍛える運動に取り組む必要がある。
- 児童の生活リズム調べ（1月）によると、児童の朝食摂取率は88%、早寝73%、早起き69%で、概ね目標値を達成しているが、大きくは改善していない。メディア視聴時間が長い児童が固定化している。

【わくわくする学校】

- 教職員の不適切事案は0件であるが、類似事案が発生している。学校満足度は児童94%、保護者95%である。
- 会議は、予め終了時刻を設定し取り組んだが、時間外に係る場合もあった。
- 地域の人材を活用した授業設定を目標とし、令和5年度は全学年トータルで42回実施することができた。

IV 学校教育目標

すすんで行動し、みんなとともに伸びる子どもの育成
～ 『わくわくする』学校 ～

V 目標及び取組

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策
児童の学力の向上を図る。	①基礎基本の定着の徹底 ②思考、判断、表現力の向上 ③学びに向かう力の育成	①「本時で身に付けるべき知識・技能」を児童と確実に共有することで、単元や学習のゴールへ向けて主体的に学習できるよう授業改善を行う。 ①MIM（多層指導モデル）やドリルタイムの取組を通して、「聞く・話す・読む・書く・計算する・推論する」等の力を高めるための個別指導の充実を図る。 ②長文読解や文章問題を正しく読み取るための方法（注目すべき文言に印を付ける等）を児童に紹介しながら継続的に指導する。 ②教科横断的なカリキュラム設計を行い、身に付けた知識・技能を活用できる場を設定する。 ③学び方や考え方の選択肢を提示し、児童が問題を解く際に「自己決定」しながら主体的に学ぶことができるようにする。 ③1単位時間または単元の学習の中で、自らの学びを自覚したり見通しをもったりすることができるよう、「振り返り」の内容を充実させる。
児童の豊かな心を育く。	規範意識を向上させ、毎日を気持ちよく過ごす児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は「時間を守る」「大きな声で返事・挨拶ができる」という自信をつけるために、日常的に肯定的評価をしていく。 ・委員会活動を児童主体の取組にする。 ・学校・地域貢献活動を行う場を設定する。
児童の体力の向上を図る。	①上体起こし及び50m走の種目を通して、体力向上を図る。 ②健康体力を高めるための生活習慣の定着を図る。	①サーキット運動や体支持運動を積極的に取り入れ、体幹を鍛える。 ①児童が主体的に外遊びを楽しむことができ、「走る」機会を増やすことができるよう委員会活動を充実させる。 ②生活時間を意識させ、健康の保持増進のために生活調べを行う。（早寝、早起き、朝ごはん）
信頼される「わくわくする」学校となる。	①教職員による不祥事を0（ゼロ）にする。 ②業務改善を進める。 ③保護者が相談しやすい環境をつくり、学校満足度を向上させる。 ④地域や学校外の人材を活用した授業を設定する。	①月1回の服務研修の確実な実施と過去の事例と防止策を研修内容として取り入れる。 ②会議は内容を確認し、必ず始まりの時刻と終了の時刻を設定して行う。 ③定期的な「便り」の発行やHPの更新を行い、取組状況や児童の状況を発信する。 ④各学年で、地域・保護者連携を行い、地域や学校外の人材を活用した授業を行う。